

福島県×東京スイソミル コラボイベント

「水素エネルギーって何だろう？」オンラインクイズ大会・報告書

- 実施日時 令和3年2月27日（土）
14時00分～15時00分
- 実施方法 Zoomを使用したオンライン開催
- 受講者数 定員50名 受講申込者40名



□実施概要

国立研究開発法人産業技術総合研究所再生可能エネルギー研究センター長 古谷博秀 先生、福島県商工労働部 産業創出課 橋本 真様 にご協力いただき、小学生など約 30 名の方にご参加いただき、クイズを通して楽しく水素エネルギーについての理解を深めました。また、そのうち小学生 10 名の参加者の皆さんをゲストスピーカーとしてお招きして、古谷先生や橋本様と質疑応答の時間を設けたり、地球温暖化防止や SDGs の達成に向けて自分達にできることを考えたりしました。

また、イベント終了後も時間を延長して質疑応答を続け、素朴な疑問から鋭い本質的な問いまで熱心にお話しいただきました。

なお、弊社は、令和元年まで 4 年間福島県の子供たちを水素情報館「東京スイソミル」に招待し、水素 エネルギーへの理解を深め、福島が復興する未来の姿を感じてもらうためのバスツアーを開催していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、オンラインでの交流の場を設けました。

□実施内容

○ プロローグ「SDGsについて知ろう」（希望者のみ）

1 クイズに挑戦！水素エネルギーって何だろう？

日本の家庭から出る二酸化炭素は、何から出るものが一番多いでしょうか？燃料電池を使って動く、実際に使用されている乗り物はどれ？などのクイズを出題し、アンケート機能で参加者に回答していただきました。



2 専門家の先生に聞いてみよう

○次世代エネルギーについて

(講師)

国立研究開発法人産業技術総合研究所再生可能エネルギー研究センター長 古谷 博秀先生

産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所 FREA(フレア)HP のバーチャル見学ツアーを使って、再生可能エネルギーを使った水素利用の技術に関して、とてもわかりやすくご説明いただきました。



その後、ご参加いただいた方の中から 10 名がゲストスピーカーになってくださり、古谷先生に直接質問していただきました。また、事前に参加者の方からいただいたたくさんの質問にお答えいただきました。

「水素が漏れたらどうなりますか」といった安全面、「水素を使いすぎると空気中の酸素がなくなってしまわないか」を心配するご質問、ご自身で工作してみたところ、「うまくいかなかった、どうしてでしょうか」、「水素は今どこで使われているか」、「水素はどうして軽いのか」といった素朴な質問に加え、「どうしたら世界に水素を広めていくことができるか」、「二酸化炭素は減らすことはできないですか」といった本質的な鋭い質問もあり、こどもたちが非常に高い目的意識をもって参加してくださったことがよくわかりました。

また、福島県商工労働部 産業創出課 橋本 真様にも大人の方からのご質問で「東北エリアは日本の中でも水素をはじめとした再生可能エネルギーに力を入れている印象があります。福島県はそのイメージが強く感じられますが、他の東北各県でもその傾向は見られますか?」といったご質問には、「福島県は 10 年前に東日本大震災で大きな地震と津波、そして原子力発電所事故で大きな被害を受けた。その時の教訓から、原子力に頼らないで安全で安心でいつまでも続けていける社会を目指して再生可能エネルギーを推進することにした。



その結果、県民の皆さんも頑張った結果として、今大規模な太陽光発電については発電能力が全国で 1 位というところまでなってきた。」ことに加えて、福島県以外の東北各県でも再生可能エネルギーが普及しているかについてお答えいただきました。東北は自然がたくさんあるので再生可能エネルギーを使いやすい地域ですし、使わないととってももったいないと思いますとのことでした。

3 ゲストスピーカー対談「持続可能な未来のためにやってみたいこと」

ここまでお話を受けて、持続可能な未来の実現に向けてやってみたいことをゲストスピーカーの方に話してもらいました。そこでいただいたご意見は以下のようなものでした。

「ごみを減らしたい」「みかんの皮など生ごみを肥料にしたい」「いろいろなものを捨てずに他のものに使えないか試してみたい」「将来、水素を使った乗り物などを作ってみたい」「リサイクルできるものを使ってみたいけど、どれがリサイクルできるのかわからない」といった、**自分自身の今や将来の行動に繋げていきたいという前向きな意見をたくさんいただきました。**

4 終了後、引き続き質疑応答の時間

本編の終了後も参加者の方から関心の高い質問をいただき、希望者のみ質疑応答を続けて行いました。水素を安全に扱うための技術や、たくさんの水素を製造する際の課題など、水素の利用を増やしていくために必要なことに関する質問のほか、日本が天然資源の多くを輸入に頼る中、自然災害やコロナ禍で輸入が止まった場合の影響についての質問もあり、子供たちが真摯にエネルギー問題に向き合っていることがわかりました。

また、なぜ福島県で再生可能エネルギーが進められているのか、という質問については、本編の中でお答えいただいたことに加え、3.11からの復興のために再生可能エネルギーの推進に賛同した研究者・福島県内の企業・県民の思いと力が集まって実現できた、**ぜひ若い世代の皆さんにも、より福島県の再生可能エネルギーに興味を持って勉強していただけると嬉しい**というお話がありました。

ご協力いただきました FREA 古谷先生、福島県橋本様、七海様はじめ、ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

レコーディング中



ここにを入力して検索

